

建設業のノウハウを活かし、 竹を有効活用した循環型 ビジネスモデルの構築

1 新分野進出のきっかけ・経緯

現有機械と人材の有効活用が図れる新事業の探索を開始。環境分野に焦点を当て、建設業のノウハウを活かした竹林整備・管理事業に進出した。

また、県内有数の竹の子産地という地域特性を活かし、伐採された竹を有効活用し、高付加価値化を実現しようと模索した。

この結果、伐採された竹をチップ化し、堆肥や燃料として有効活用する事業を実施した。

2 進出時の問題点とその対応

事業化に当たっては、自己資金と銀行融資を利用した。

国土交通省の新分野進出モデル事業の助成金を活用したほか、中小企業新事業活動促進法の経営革新計画の認定を受けた。同計画の認定は、銀行から融資を受ける際に有利であった。

また、竹を原料に自社で堆肥化事業を行うためには、県の許可が必要となり、施設整備の方でクリアすべき問題が多い。竹の子農家の高齢化とともに竹林の荒廃が進んでいるが、工事費を払ってまで竹林整備を依頼する農家は少ない。

その対応策として、工事費を抑えるために、機械による伐採・処理で作業コストを下げる工法や、チップの需要先の確保が必要である。

3 公的支援制度の活用状況

(1) 国土交通省

新分野進出モデル構築支援事業

(2) 特許庁

産業技術力強化法第18条第2項による審査請求料の1/2軽減

(3) 福岡県

経営革新促進補助金（販路開拓事業）

4 事業の推進体制

従業員数 8人



5 事業の成果

● 主な顧客・販売先

福岡県、みやま市、民間

● 直近の売上高

2,200万円（産廃中間処理含む）

● 直近単年度収支 120万円

6 今後の課題・展望

竹林の荒廃は、農家の高齢化でますます進む、それに伴い里山が荒れ、イノシシ等害獣の被害が拡大している。個人農家ではなく行政レベルの支援が必要ではないだろうか。

竹チップを原料とする事業からの引き合いは多少あるものの、規格・形状・切断方式がさまざま、多様化している。

今後は竹、伐採材、解体材を原料としたバイオ燃料（アルコール・水素等）の原料への可能性を追求したい。

また大型破砕機を活用し、現場で破砕処理工事、産廃・一廃の収集運搬業・処理業の強化を行いながら、竹林事業を拡大させたい。

会社概要

建設業の会社

会社名 株式会社松田組
所在地 福岡県みやま市
代表者 代表取締役 松田 耕志
従業員数 8人
事業内容 土木、解体、浄化槽等
資本金 30,000千円

新分野事業の会社

会社名 「建設業の会社」に同じ